

今日のトピック

中国は追加金融緩和で景気減速に対応

ポイント1 政策金利と預金準備率をともに引き下げる緊急措置

預貸金利ともに0.25%の引き下げ

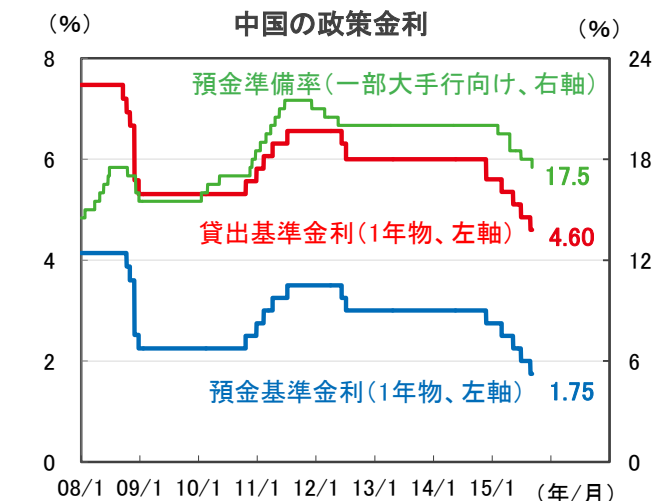
- 中国人民銀行(中央銀行)は25日、政策金利である預金と貸出の基準金利(期間1年)を26日からともに0.25%引き下げ、それぞれ、1.75%、4.60%とすると発表しました。さらに、預金準備率も9月6日から0.5%引き下げるとしました。
- 今回の引き下げは、預貸基準金利が昨年11月以来で5回目、預金準備率は今年4回目です。また、1年以上の定期預金金利の上限規制を撤廃し、金利の自由化を進めました。

ポイント2 景気減速に追加緩和で対応 相次ぐ株価対策の効果はあがらず

- 11日に人民元が切り下げられ、中国の景気に不透明感が強まったうえ、8月の財新製造業購買担当者指数(PMI)が前月から低下し、景気減速懸念が一段と強まりました。今回の措置は景気減速に追加緩和で対応した形です。
- 6月後半の株安局面では、利下げに続き、相次いで株価対策が講じられました。しかし、こうした株価対策の効果があがっていないこともあり、追加対策の必要性が高まっていました。利下げなどで景気減速懸念が和らぎ、株価の下落傾向に歯止めがかかることが期待されます。26日の上海総合指数は、日本時間の14時30分時点で、前日終値に対して、+2.6%上昇しました。

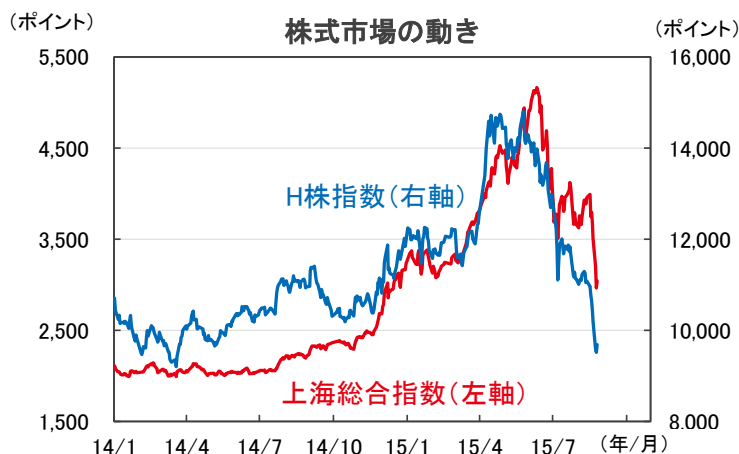
今後の展開 追加の政策対応が期待され、景気底割れは回避へ

- 中国政府は、大型の景気対策には消極的と見られるものの、インフラ整備、環境対策、市場化推進など、成長力の引き上げに必要な政策発動を積極的に行うと見られます。追加の金融緩和や段階的な人民元の切り下げが見込まれ、年後半に向けて、景気の下振れ懸念が次第に薄らぎ、中長期的な安定成長へと向かうと見られます。



(注) データは2008年1月1日～2015年9月6日(8月27日～9月6日は変更が無いと仮定)。

(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注) データは2014年1月2日～2015年8月26日(日本時間14:30時点)。

(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- 本土株式市場では、政策対応や経済指標を見極めようとする動きが強まりそうです。機関投資家がグローバルに投資する香港市場では、本土市場の動きに加えて、米国の利上げ観測も影響すると見られます。本土、香港市場ともに、当面は不安定な展開のなかで、底入れを探る展開となりそうです。

ここも チェック!

2015年08月25日 最近の指標から見る中国経済(2015年8月)

2015年08月25日 足元の金融市場動向、中国の景気改善を見極める展開へ

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。